柱

栗山政子

目を癒す花柊の香の中に
声をかければ狐火の膨らみ来
凍つる夜をぴしと割りたる柱かな
寒月や並木を風の走りくる
地下鉄の赤に乗換へ寒の明け
太陽昇る白梅の蘂揺るる
雨降り出して落椿落椿
囀の中へ返事が紛れ込み
クレソンの周りの水の揉み合へる
坂がかる石の回廊鳥帰る